

東京支店 営業推進課
石橋清香に聞く

NEWS LETTER 遊文通信

2019年5月発行

93

遊文舎における
ダイバーシティ
の取り組み

政府が掲げる働き方改革の一環で、最近「ダイバーシティ＝多様性」という言葉が市民権を得てきました。現在の日本では、女性の活躍や女性管理職を増やすというテーマで使われることが多いそうです。

遊文舎では、前号にて紹介しました健康経営優良法人の取得や、就業規則の改定をはじめとした環境整備を積極的に行い、働き方のダイバーシティを進化させようと取り組んでいます。

結婚・出産を経て現在は時短勤務で活躍している女性社員3人のうちのひとり石橋清香へ、木原社長がインタビュアーとして対談を行い、女性の能力を持続的に発揮させている現状及び本音に迫ります。

木原：もうすぐ勤務年数が7年になるということで、現在に至るまでの経緯を聞かせてください。

石橋：大阪本社には丸2年いました。その後東京へ行くことになり、1年半ほど営業として働いていました。

木原：東京に行くことになった際、その当時の心境や営業としてのやりがいなどはいかがでしたか。

石橋：大阪と東京でお客様への接し方や商談の手順などが違うのではないかと探りながら営業をしていた記憶があります。実際にはそれほど大きな違いはなかったのですが、東京は、品質にはシビアで良いものに対しては費用を惜しまないという印象を持ちました。本社が大阪にあるということで、そのギャップをどう伝えるかという苦労はありましたが、デザインセンスを求められる仕事が多かったこともあり、競合他社のサンプルを集めて研究する作業は楽しかったですね。また、水木しげる先生のような著名な方のイラストを使用してデザインをするという機会は大阪にいた頃はなかったので、凄く印象に残っています。

木原：そういった充実した営業としての生活や私生活を経て、結婚することになったと。そして遊文舎で仕事を続けようという意思表示をもらったのですが、退職して専業主婦に、ということは考えなかったのですか？

石橋：一切考えなかったです。働きながら家のことをできる範囲でしていきたいと思いました。

木原：専業主婦という選択肢はなく、社会にでて自分の能力を



石橋 清香
いしばし さやか

32歳 大阪府堺市出身
2013年に営業推進職として遊文舎大阪本社に就職。その数か月後、前職の法人営業の経験を活かすべく、営業職となる。
2015年に東京支店転勤。
2017年結婚、千葉県在住、現在に至る。

発揮したいという考えですね。営業から営業をサポートする営業推進職になりましたね。

石橋：結婚することを決めて、営業推進職への異動をお願いしました。結婚するにあたって、子供も欲しかったので、子供を育てるとなってから異動すると会社に迷惑が掛かってしまうのではと思い、結婚を決めた時点で、営業よりスタッフ数が多い営業推進に異動させていただきました。

木原：結婚してから住まいも変わって環境が激変したかと思えます。新生活をスタートさせたあたりの心境はいかがでしたか。

石橋：結婚した当初は時短ではなかったので、普通に勤務をしていたのですが、それまで会社の近くに住んでいたのが引っ越

[大阪本社] 〒532-0012 大阪市淀川区木川東4丁目17-31

TEL: 06-6304-9325(代) FAX: 06-6304-4995

[東京支店] 〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2丁目20-7 水道橋西口会館 8F

TEL: 03-5357-1420 FAX: 03-5357-1421

<http://www.yubun.co.jp/>

E-mail info@yubun.co.jp



して、通勤時の電車の込み具合にびっくりしました。家に帰ってから食事の支度もしないといけないなど、仕事以外の大変さというのがありますが、異動も

含め会社に許可されて働いているので、頑張るしかないかなと思いました。

子供が生まれてから育休のあと復職し、時短で働かせていただいているのですが、以前は残業時間も含めて自分が仕事に打ち込もうと思った時間だけ打ち込めていたのが、限られた時間の中で子供を迎えに行かないといけない、とかがあるので、仕事を残して周りに迷惑をかけないようにということを考えました。何か月かやってそれにも限界があることに気づいたので、それからは自分の仕事のやり方自体を変えていかなければいけないという感じでした。

木原：無我夢中だったんですね。それで現在に至ると。遊文舎がダイバーシティへの取り組みを始めたのは最近ではありますが、結婚を機に異動をされた経験など踏まえて、そういった取り組みを肌で感じられますか。

石橋：時短もちろん、結婚するにあたって異動をさせて頂いたことも、個人の意思を受け入れて頂いているので働きやすいです。自分がお返しできることを考えていかなければいけないなと感じています。東京支店の皆さんには勤務時間に対して理解をしていただいているので、本当にありがたく働かせてもらっています。

木原：遊文舎ではダイバーシティの取り組みの一つとして、大きくはまず2019年1月に就業規則の改定をしました。働き方改革ということもあり、労務環境の整備をより進めることができました。また、2018年末に社員総会にて紹介した健康経営優良法人の取得もしました（2019年2月21日取得）。従業員が気持ちよく、健やかな環境で長く勤めることで、モチベーション高く、生産性の高い仕事をして利益としてリターンすることを目指して行っています。そういった一連の取り組みについてはいかがですか。

石橋：健康経営については、東京支店ではドルチェグストを導入していただきました。1日1杯ほど頂いています。外に買いに行かなきゃいけないとか、朝、電車の遅延でコンビニに寄る暇がないときに、社内で飲み物をゲットして気分を変えられたりするのすごくありがたいです。社員のことを想ってくださっているからこそその取り組みだと思えます。

健康経営のリーダーをされている石田直子さんにも要望をさまざま聞いていただいているので、今後もしろいろ導入されるのかなと期待しています。

木原：風通しの良さというか、「こういうことをぜひやってほしい」ということを言いやすい環境なんですよね。最後に、今後のライフビジョンをお聞かせください。

石橋：今後も子育てや家事もしながら、仕事のなかで自分を成長させ、今と同じように働いていけたらいいなと思っていますのでよろしくお祈りします。

木原：これからもぜひ活躍を期待しています。取り組みはまだ始まったばかりですが、一歩ずつ取り組んでいくことで、社員の能力を引き出し、モチベーションを高め、お客様によりよい価値のあるものを提供できるように努めて参ります。

新編集長のご挨拶

企画営業部
中堀卓也

皆様、初めまして！

今月号より編集長に任命されました、企画営業部の「中堀卓也」と申します。

この『遊文通信』を通じて、ご愛読いただいている皆様へ、「印刷とは」「遊文舎とは」など様々な情報を発信し、楽しんでいただけるよう、日々精進してまいりますので何卒宜しくお祈り致します。

私は遊文舎に入社し3年目です。前職は印刷業界とは全く違う業種におり、今でも日々四苦八苦しながら一つずつひとつずつ、奥深い印刷の道を勉強しております。去年9月に息子も誕生し、プライベートでも新米パパとしても四苦八苦です。

ただ私は、とにかく色々な事に興味を持ってしまふところがあり、これが人間としての長所に繋がるのでは、と願っています。野球にゴルフ、ダーツ、自転車などなど、多趣味ですので、どこかでお会いする機会がありましたら、印刷の以外のことでもいろいろお話させていただければ大変うれしく思います。

それでは！今後とも『遊文通信』を通して遊文舎と私「中堀卓也」の事をよろしくお祈りいたします。



● 編集後記 ●

新編集長の「中堀卓也」改め「ホリ」と申します。これからはこちらの編集後記でちょくちょく登場させていただきます。たまには冗談なども申し上げますが、温かい目で見守っていただければ幸いです（笑）

『遊文通信』では紙面上の情報だけではなく、実際の印刷用紙を使用し様々な種類の紙も皆さまに発信させていただきます。是非、気になる紙などございましたら、担当させていただいている営業スタッフにお問い合わせください。（ホリ）

☒ 今月の紙 ☒

ユトリロコート
菊判 / 93.5kg